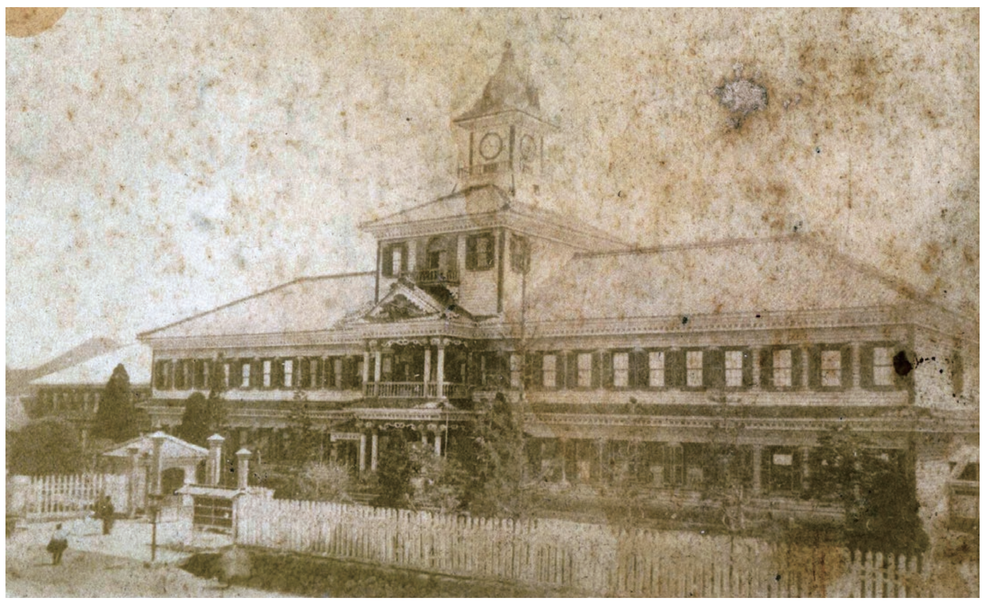
地域教育文化学部の歩み

山形県師範学校の誕生

地域教育文化学部の起源は、1878年（明治11）に創設された山形県師範学校にさかのぼります。山形県の初代県令（現在の県知事）となった三島通庸（みしま　みちつね）は、県庁を旧山形城三の丸から旅籠町に移し、その周辺に県にとって重要な施設を建設しました。その一つとして設立された山形県師範学校は、県下の教員を養成する学校で、校舎は当時にしては珍しい和洋折衷様式を採用していました。

山形県師範学校の初代の校長には、江戸時代に置賜地域を治めた米沢藩出身の学者で、戊辰戦争でも武士として活躍した斎藤篤信（さいとう　あつのぶ）が就任しました。斎藤は、自ら「修身」（道徳）の授業を受け持ち、教育者としてのあるべき姿を説きました。講堂にはいつわりのない誠実さは良い結果をもたらすという意の「至誠通神」と書かれた額が掲げられました。山形県師範学校の校歌には「誠の一念心と身とを　進めて琢きて世のためつくせ」と、「誠」の語が見えます。

1943年（昭和18）には1902年（明治35）に創設された山形県女子師範学校と合併して山形師範学校となり、1949年（昭和24）の山形大学創設とともに教育学部、2005年（平成17）の改組で地域教育文化学部となります。なお、地域教育文化学部のもう一つのルーツとして、1922年（大正11）に山形県師範学校内に設立された実業補習学校教員養成所も存在します。主に農業・畜産など実業学校の教員養成が行われたもので、1935年（昭和10）には青年学校教員養成所、1944年（昭和19）には青年師範学校と改称されました。

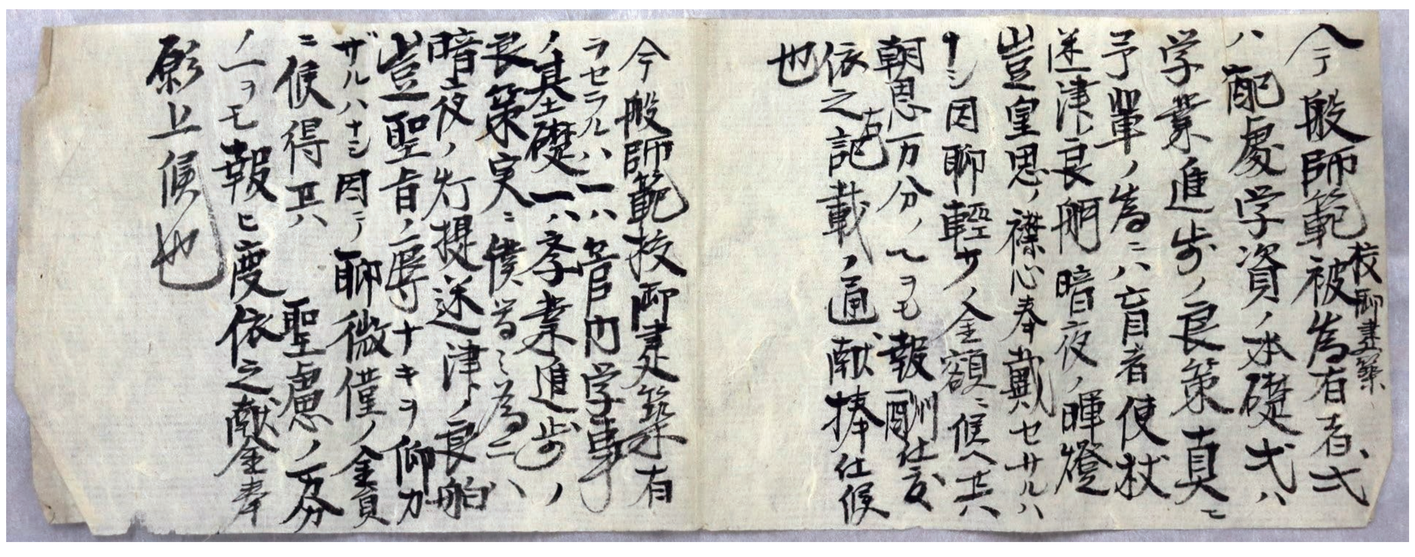


山形県師範学校校舎（山形大学附属博物館制作「山形アーカイブ」）

地域とのエピソード

山形県師範学校の建設にあたっては、置賜地域（西置賜郡山口村姫城）と村山地域（西村山郡慈恩寺）から建材として木材が調達されたほか、地元の職人1000名余りが関わったとされています。

また、山形大学附属博物館には、村山地域にある新山村の戸長（村長）が、山形県に対して師範学校の建設費用を寄付した際に提出した書類の下書きが残っています。下書きには、「今回の師範学校の建築は、一つは山形県の教育の基礎になり、一つは学問の進歩につながる良策である。私たちにとって師範学校は、暗い夜道を歩くための提灯（ちょうちん）、迷いそうな水路を通れるような良い船のようなものだ。少しばかりのお金であるが、一万分の一でもお役に立ててもらえるとありがたい」と山形県師範学校の設立を歓迎するむねが記されています。



「山形市新山板垣家文書」
（山形大学附属博物館所蔵）

山形アーカイブ実行委員会

山形大学は２０２４年、
開学７５周年を迎えます

つなぐちから。山形大学
共育・共創・共生による持続可能な幸福社会の実現

山形大学 Yamagata University
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
山形大学は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています